

(3) 大問 [三] 国語基礎力の応答分析, 考察, 指導上の留意点

問一

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (1)	正答	ア (740万トン)	84	76	52	212	70.7
	誤答	イ (6万4000トン)	8	19	32	59	19.7
		オ (733万トン)	7	3	8	18	6.0
		ウ (7万トン)	1	2	2	5	1.7
		エ (1万3000トン)			5	5	1.7
		(無 答)			1	1	0.3

記事にある情報を参考にグラフから数値を正しく読み取る問題である。正答はアで、正答率は70.7%、〈a b - c 型〉を示している。誤答イを選んだ生徒は、上段が生乳生産量に関するグラフ、下段がバターに関するグラフであることを読み取れなかったようである。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (2)	正答	ア (生乳の国内生産量が減っていること)	89	83	50	222	74.0
	誤答	イ (バターの国内需要が増えていること)	5	6	19	30	10.0
		オ (国外からの輸入に頼っていること)	1	5	16	22	7.3
		ウ (生乳の国内需要が減っていること)	2	4	6	12	4.0
		エ (牛乳の国内生産量が増えていること)	3	2	7	12	4.0
		(無 答)			2	2	0.7

記事の主旨を把握する問題である。正答はアで、正答率は74.0%、〈a b - c 型〉を示している。全体的に正答率は高く、生乳の国内生産量とバターの生産量に関係性があることを読み取ることができたようである。誤答イとオは記事の中に出てくる事柄ではあるが、バターの品薄の原因とは言えない。本文にある情報を的確に読み取り、それぞれの情報がどう関係しているかを理解する必要がある。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (3)	正答	ウ (バター生産量の不足分は、輸入によって～)	79	61	39	179	59.7
	誤答	オ (生乳の国内生産量は、この二十年で一割～)	13	17	14	44	14.7
		エ (酪農家の後継者不足が、生乳生産量の～)	6	8	20	34	11.3
		イ (天候や気温などの環境も、生乳生産量～)	2	8	14	24	8.0
		ア (日本でのバター需要は、季節によって～)		6	12	18	6.0
		(無 答)			1	1	0.3

記事の内容の細部を確認する問題である。正答はウで、正答率は59.7%、〈a - b - c 型〉を示している。問われている内容を理解し、それぞれの情報がどこに書かれているかを正確に読み取ることが必要である。ウのみ[A]とグラフからも読み取ることができるが、それ以外の選択肢は、[B]からしか読み取ることができない。誤答を選んだ生徒は、「[B]以外にも示されている情報はどれか」という指示を理解できていない可能性がある。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (4)	正答	イ ([A]は概略を述べたものであり～)	85	68	48	201	67.0
	誤答	オ ([A]とグラフは問題を提起したもので～)	12	14	27	53	17.7
		ア ([A]はグラフを客観的に分析しているが～)	1	11	11	23	7.7
		エ ([A]の中に出てくる数値は、すべてグラフ～)	2	3	8	13	4.3
		ウ ([A]と[B]は同じ問題について、対立する～)		4	4	8	2.7
		(無 答)			2	2	0.7

記事の構成を把握する問題である。正答はイで、正答率は67.0%、〈a－b－c型〉を示している。**A**は**B**やグラフにある記事全体の情報をまとめたものであるということを理解する必要がある。新聞記事の構成が一般的に「概略から詳細」の形になっていることを理解させたい。

問二

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問二	正答	オ（調子に乗って足をすくわれる）	28	21	21	70	23.3
	誤答	ア（去年の試合の雪辱を晴らす）	35	36	27	98	32.7
		イ（彼のいたずらは手が負えない）	11	22	23	56	18.7
		エ（授賞式で脚光を集める）	22	13	20	55	18.3
		ウ（今の彼は取り付く暇が無い）	3	7	8	18	6.0
		その他（複数回答）	1	1	1	3	1.0

表現の知識についての問題である。正答はオで、正答率は23.3%、低位の〈a－b c型〉を示している。表現を間違っていて覚えているというよりも、むしろこれらの日本語表現に馴染みがないからではないかと思われる。

問三

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問三	正答	エ（教室にはだれも <u>い</u> ない）	67	46	35	148	49.3
	誤答	ウ（褒められても <u>う</u> れしくない）	29	34	30	93	31.0
		イ（工事現場に入っ <u>て</u> は危ない）	1	9	14	24	8.0
		オ（お礼な <u>ん</u> てと <u>ん</u> でも <u>な</u> い）	3	7	9	19	6.3
		ア（何 <u>度</u> 呼んでも返事がない）		4	12	16	5.3

文法的識別についての問題である。正答はエで、正答率は49.3%、〈a－b c型〉を示している。ウを選択した割合から見ると、助動詞と形容詞の識別が十分にできていないことが分かる。

問四

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問四	正答	イ（微妙な意味 <u>合</u> い）	98	89	59	246	82.0
	誤答	ア（新しい捉え方）	2	4	14	20	6.7
		オ（前後のつ <u>な</u> がり）			12	12	4.0
		ウ（成立の事情）		3	8	11	3.7
		エ（明らかな根拠）		4	7	11	3.7

カタカナ語の知識についての問題である。正答はイで、正答率は82.0%、〈a b－c型〉を示している。日常で用いる機会の多いカタカナ語について、多くの生徒が意味を理解していることが分かる。

問五

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問五	正答	ア（服 <u>従</u> ）	87	71	32	190	63.3
	誤答	ウ（承 <u>知</u> ）	7	12	38	57	19.0
		オ（尊 <u>敬</u> ）	6	15	17	38	12.7
		イ（命 <u>令</u> ）		2	7	9	3.0
		エ（理 <u>解</u> ）			6	6	2.0

対義語の知識についての問題である。正答はアで、正答率は63.3%、〈a b－c型〉を示している。誤答ウを選んだ生徒は「服従」や「反抗」の意味を十分に捉えられていなかったと考えられる。

問六

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (1)	正答	抱負	66	44	26	136	45.3
	誤答	豊富	5	13	19	37	12.3
		抱□ (□が別の字, または無表記)	5	9	6	20	6.7
		□負 (□が別の字, または無表記)	4	5	3	12	4.0
		(その他)	18	23	32	73	24.3
		(無答)	2	6	14	22	7.3

「ホウフ」を漢字に直す問題で、正答率は45.3%、〈a－b－c型〉を示している。昭和51年度にも出題された（正答率は20.5%）が、正答率は今回の方が高い。誤答では「豊富」が最も多い。文脈に適した漢字を書き取る力を身に付けさせたい。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (2)	正答	林立	5	4	4	13	4.3
	誤答	隣立	54	30	5	89	29.7
		臨立	6	11	5	22	7.3
		□立 (□が別の字, または無表記)	13	29	32	74	24.7
		(その他)	20	13	27	60	20.0
		(無答)	2	13	27	42	14.0

「リンリツ」を漢字に直す問題で、正答率は4.3%、非常に低位の〈a b c型〉を示している。全設問の中で最も正答率が低く、c群では無答も多い。誤答は「隣立」が最も多く、林のように多くのものが並び立つことを表す「林立」という言葉自体に馴染みがない生徒が多いのではないかと思われる。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (3)	正答	彫(る)	66	43	29	138	46.0
	誤答	堀(る)	6	17	18	41	13.7
		掘(る)	12	14	13	39	13.0
		(その他)	12	14	24	50	16.7
		(無答)	4	12	16	32	10.7

「ホ(る)」を漢字に直す問題で、正答率は46.0%、〈a－b－c型〉を示している。「堀る」「掘る」の誤答が多く、同訓の異字を意味によって使い分ける力が不足していると言える。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (4)	正答	わずら(わしい)	90	47	18	155	51.7
	誤答	まぎら(わしい)	4	20	15	39	13.0
		(その他)	5	24	51	80	26.7
		(無答)	1	9	16	26	8.7

「煩(わしい)」の読みを答える問題で、正答率は51.7%、群間差の大きい〈a－b－c型〉を示している。平成17年度（正答率47.0%）を上回る結果となった。誤答の「まぎら(わしい)」は文脈から推測したと思われる。b・c群においてはさまざまな誤答があり、日常的に用いる言葉として定着していない可能性がある。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (5)	正答	ふおん	99	85	60	244	81.3
	誤答	ふいん		2	6	8	2.7
		ふよう		2	5	7	2.3
		(その他)	1	8	24	33	11.0
		(無答)		3	5	8	2.7

「不穩」の読みを答える問題で、正答率は81.3%、〈a b - c 型〉を示している。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (6)	正答	ひるがえ(す)	60	30	8	98	32.7
	誤答	ほどこ(す)	16	25	11	52	17.3
		やく(す)	3	6	7	16	5.3
		(その他)	18	35	55	108	36.0
		(無答)	3	4	19	26	8.7

「翻す」の読みを答える問題で、正答率は32.7%、群間差の大きい〈a - b - c 型〉を示している。b・c 群において、さまざまな読み間違いがあった。最も誤答が多かった「ほどこ(す)」は、「翻す」という言葉自体に馴染みがなく、よく知っている言葉と混同した可能性がある。

〈指導上の留意点〉

実 態 及 び 問 題 点	
記事に書かれていることは部分的に理解できるが、記事の構成や情報相互の関連性について、理解が不十分な生徒もいるようである。新聞記事における文章構成の工夫を確認し、相手に自分の意見を的確に伝える力を身に付けさせたい。	
指導における改善の具体策	
学習活動	多くの情報の中から必要な事柄を取捨選択し、関連付け、自分の主張を的確に伝えることのできる新聞記事を作成する。記事作成を通して、構成の大切さを学ぶ機会としたい。
1	実際の新聞記事を使用して、文章や紙面の構成について確認させる。 *新聞各紙による同一記事を比較させることで、記事の扱いだけでなく、文章構成や表現などそれぞれの工夫に気付かせることもできる。
2	教員がある事柄の情報を提示する。 *各省庁が発行している「白書」を利用することもできる。生徒が情報を取捨選択できるよう、可能な限り多くの情報やデータを提示できるとよい。
3	生徒に情報を取捨選択させて、一人一人に記事を作成させる。 *分かりやすく情報を伝えるためには、見出し・概略・詳細・グラフ等を効果的に示す必要性があることを理解させる。
4	作成した記事を相互評価させ、作成者による視点の違いに気付かせる。 *あらかじめルーブリック等を生徒に作成させることで、目標や評価基準を明確にすることができる。
応用	教科書で扱う論理的文章・文学的文章の記事にする活動を行わせることで、生徒の教材への関心が高まり、主体的な学びを期待することができる。 (例)「外来語の氾濫」(『日本語はだれのものか』川口良・角田史幸) 「青少年による事件」(『羅生門』芥川龍之介)
* 生徒に文章構成の大切さを学習させ、構成力や自分の意見を適切に伝える力を身に付けさせ、また、情報の取捨選択の必要性を実感させることは、生徒が小論文を書く時にもつなげることができる。	